

令和6年度「支え合いを育む人づくり支援事業」事業実績

No.	申請高校・大学名	種別	新規	グループ名	教育・研究活動名	指導責任者名 (教員名)	参加予定 生徒・ 学生数	協働する 市民活動団体名	主な活動目的・活動内容	活動期間及び 報告会予定日	活動内容(分分野別)				
											高齢者	子ども	障害者	防災	その他
1		高校		あまおだ「かんご」	『地域社会貢献活動－高校生にできること－研究活動による政策提言とイベントの実施』『防災・減災－災害時要配慮者の支援、特に生涯を持つ人との関わり方、高齢者支え合い・見守り事業、災害時のトイレ対策、フレイル予防と災害』『在宅療養・看取りの地域啓発活動・高齢者の孤立対策、フレイル予防』『子どもの生きづらさを解消するには－子どもの貧困、子どもの虐待、小児・AYA世代のがん、障がい・難病の子ども、医療的ケア児、ヤングケアラー』『人権擁護・差別解消－感染症と差別、デートDV、DV、性暴力、子どもの権利』など	福田 秀志	30 人	小田地区民生児童協議会	高校生にできる以下の4つの地域社会貢献活動を地域コミュニティづくりを目的に取り組んだ。 ・「防災・減災班」は、障害者向けNPO法人、自治会等の協力により「防災あんしん帳」の作成や、「おだ祭り」「あまおだ減災フェス」「つながる防災」等の実施を通して、減災の必要性について市民に啓発した。また、高齢者の孤立対策では、「要支援者・見守りささえあい事業」において、民生児童委員に協力を得ながら地域の要支援者の見守り活動を行った。 ・在宅療養班は、尼崎市医療・介護連携協議会等の協力により、「在宅療養ワークショップ」を2箇所で開催し、劇を通して認知症やACPIについて啓発等を行った。 ・「子ども班」は、青フェス、尼崎市民まつり、アミंग潮江商店街等において、親子が楽しめる出し物を実施した。また、5箇所の子どもの食堂を訪問し、食材の財源と募金活動を実施し、尼崎子ども食堂ネットワークに届けた。 ・「性暴力班」は、性暴力を通してジェンダー平等、包括的性教育の必要性を導き出し、高校生にできる「包括的性暴力」の内容や災害時の性暴力について探究活動報告会において報告するとともに、参加者と意見交換を行った。	活動期間 :R6.4～R7.3 報告会 :R7.1.25(小田南生涯学習プラザ) R7.2.1(小田高校)	○	○	○	○	○
2	兵庫県立 尼崎小田高等学校	高校		国際探求「members of a society」	安心して暮らせる環境づくり (1)災害時の多言語対応(非常時における社会的弱者への支援) (2)尼崎市在住の外国人支援および交流 (3)難民支援活動及び啓発	下田 貴子	22 人	尼崎市国際交流協会	誰もが安心して暮らせる地域を目指して、「難民班」「災害班」「外国人支援班」に分かれ、当事者意識を向上するために以下について取り組んだ。 ・「難民班」は、尼崎ウォーク・スタンプラリーへの参加や難民の方とのワークショップ等を通して、お互いの文化の紹介や尼崎の良さを伝えとともに、日本に避難している難民の方は、日本での生活を営む上で生活上のルールを知りたいという意見から「日本生活ガイドブック」を作成した。 ・「災害班」は、尼崎在住の外国人に参加してもらうことは困難であったが、夏祭りを実施した際に参加のあった外国人に対して高校生が作成した「防災ビデオ」を見てもらったり、クイズに答えてもらったりと防災について楽しく学んでもらう機会を提供した。また、小田高校で外国人に向けた避難訓練を実施し、災害食と一緒に食べ交流した。 ・「外国人支援班」では、栄養バランスが取れた和食を外国人と一緒に調理する機会を創出し、和食の良さを知ってもらう機会を複数回実施した。回を重ねるごとに手の込んだ料理に挑戦し一緒に食べながらそれぞれの国の食事について理合し合った。	活動期間 :R6.4～R7.3 報告会 :R7.2.1(小田高校)				○	○
3		高校		「あまおだ地域応援隊」	地域コミュニティづくり-「高齢者の生きがい作り」「子育て世代と共に作る未来作り」「子どもの居場所づくり」「災害時の高校生にできること」の4つの取り組み	難波 滋	55 人	杭瀬小学校地域学校協働本部	地域の清掃活動や防災イベント、交通安全運動、高齢者を対象としたスマホ教室等、様々な活動を通して地域住民と交流することで地域の方々と繋がりを、協働することの大切さを理解し、平時からの顔の見える関係の重要性を学んだ。また、「あまおだふゆまつり」では、生徒が企画した縁日や運動会、インクルーシブ公園の広報活動、コープこうべとのコラボによる豚汁づくりとエシカル商品の販売、ウクライナ難民の方々とのボルシチ作り等を行い、多様な方々との交流事業を活発に行った。様々な活動を実践していく中で、コミュニケーション能力を高め、地域の方々と協力して行いやり遂げる達成感を得た。	活動期間 :R6.4～R7.3 報告会 :R6.12.16(小田南生涯学習プラザ) R7.1.31、 R7.2.1(小田高校)	○	○		○	○
4	関西大学	市外大学		近藤誠司研究室	尼崎市における「防災福祉力」向上プロジェクト	近藤 誠司	30 人	尼崎市難病団体連絡協議会	尼崎市は南海トラフ巨大地震等が発生した場合、市域で甚大な被害が発生することが予想されている。そうしたなか、要配慮者は、防災対策の促進を苦慮している。そこで、要配慮者との交流を通して、学生が防災と福祉の実態を学び、「防災福祉力」向上策を検討し、市民に向けた情報発信を行うことを目的に以下の取組を行った。 「要配慮者と学生の交流事業」 ・阪神・淡路大震災から30年を迎え、難病団体連絡協議会と連携して「要援護者災害シンポジウム」を開催した。パネルディスカッションでは、1995年からの「30年の歩み」を俯瞰して、障害者福祉や高齢者福祉の立場から、それぞれ防災と福祉の領域にリンクした取組事例を紹介し、来場者・登壇者が情報交換を行う場となった。 ・また、「フレッシュな防災の知恵」の具体例として、学生が災害時のサランラップの使い方を紹介した。 「学生による情報発信事業」 ・「あま咲き放送局」において、防災と福祉に関するトークをこれまでに70本以上放送してきた。これまでの蓄積を活かし充実した内容となっており、学生たちは活発に取り組んだ。 ・尼崎市民まつりにおいて、「防災リスピー」コーナーと能登半島地震の被災地を支援するための「復興だるま折り紙」コーナーを実施し情報発信を行った。	活動期間 :R6.4～R7.1 報告会 :R6.10.27(身障センター)		○	○	○	
5	兵庫県立大学	市外大学		防災リーダー教育プログラム	地域住民、大学と高校が連携した地域防災力向上のための実践的防災・減災活動	浦川 豪	25 人	アミंग潮江商店街	尼崎地域が直面するハザード、脆弱性を理解し、地域団体及び高校と連携した地域防災活動を企画・運営し、地域防災力の向上に貢献した。 ・尼崎小田高校と連携し「あまおだ減災フェス」を企画・運営し、学生が参加者に対して、ローリングストック体験や防災カードゲーム等の内容を考え出店した。 ・アミंग潮江商店街のクリスマスイベントにおいて、防災カードゲームを実施するとともに、「知っておきたい防災標識」と題し作成した下敷きを配付し、啓発した。 ・尼崎市内の小学校において、「出前防災講義」として、防災クイズや体験学習を実施し防災を身近に感じてもらった。	活動期間 :R6.8～R7.12 報告会 :R7.3.2(立花南生涯学習プラザ)				○	
6	兵庫県立 阪神特別支援学校 分教室	高校		WORK(喫茶サービス)	喫茶サービス活動を通じた地域活動への参加・交流	村田 敦子	28 人	時友団地連合会	・障害のある生徒が、喫茶サービス活動を通じて地域との交流を深め、接客技能と社会性の向上を図り、自己効用感、就労意欲等を高めることで地域福祉活動を担う人材を育成すること等を目的に、市営時友団地の集会所で入居者や近隣住民等を対象とした月2～4回程度の「ふれあい喫茶」を実施した。喫茶活動では、地域コミュニティの場として、生徒が主体的に行動し「TARO COFFEE」6周年の記念イベントを盛り上げた。 ・武庫荘総合高校の生徒と一緒に企画・準備・運営を行い、武庫東生涯学習プラザにおいて「MUKO & TAROCOFFEE」を実施したほか、武庫まつりやオレンジリボンフェス外において、テイクアウトのコーヒーの提供を行い、地域住民に生徒の活動を知っていただくきっかけとした。	活動期間 :R6.5～R7.2 報告会 :R7.1.23(時友団地)	○		○	○	○
7	園田学園女子大学	市内大学		山崎ゼミ	運動や遊びを通じて行う子どもの見守り・ささえあい活動	山崎 雅史	9 人	社会福祉法人いきいきのびのび NPO法人つなげる	・立花地区の幼児や児童と同地区内に立地する園田学園女子大学の学生が、運動や遊びを通して交流することで、子どもの居場所づくりの活性化を図った。具体的には、何度も地域総合センター上ノ島へ足を運び、利用している子どもの姿を見、子どもと関わることで、学校以外での子どもの居場所としてのセンターの必要性を感じ取った。また、学生企画をセンター事業に位置付け、イベント実施毎に活動内容等を検討したことにより、子どもたちが楽しく遊ぶ姿や満足している姿が見られた。 ・多胎育児について考える機会がなかった学生が、ふたごハウスを訪問し、スタッフや保護者から多胎育児の大変さについての話を聞き、将来保育者や教育者としての視野を広げることができた。	活動期間 :R6.4～R7.2 報告会 :R7.2.3(園田学園女子大学)		○			
8	兵庫県立 尼崎西高等学校	高校		地域貢献グループ	地域貢献活動	本間 隆志	15 人	大庄元気むら	生徒が、元気むら運営委員会とともに、地域の抱える課題と解決策について話し合い、様々な世代が集まるイベントを企画・実施した。大庄元気むら主催の夏まつりにおいては、生徒会とボランティア部が接客を行い、大庄元気むらの運営委員が勤める高齢者介護施設においては、茶道部が和楽器演奏を行い、生徒自身が地域の方々に喜んでもらおうとする気持ちが強くなるなどの意識変容が見られた。他にも、大庄地区で実施された「大庄まつり」や「タコフェス」において文化部が参加し、高校周辺の地域を知ったり、様々な年齢層の方々と交流することで、地域課題に触れ、生徒が住んでいる地域に置き換えて考えられるようになった。	活動期間 :R6.5～R7.3 報告会 :R7.3.4(尼崎西高校)	○				○
9	兵庫県立 尼崎北高等学校	高校		芸術鑑賞部	地球・地域とつながる共生ライブ(見せよう！音楽の力 編)	吉田 英一	74 人	うさぎ屋 あまがさき環境 オープンカレッジ 新富高嶺クラブ	・生徒が様々な境遇の幼児、児童、高齢者の方々と音楽や工作を通じてその時々に行える方法でつながり、地域住民と生徒の間で地域社会における共生のあり方を模索し実践した。 ・地域イベントやエコあまフェスタ、地域清掃への参画、こどもライブや工作教室、高齢者や障害がある方との音楽での交流等、様々な課外活動を経験することにより、世代間の文化の理解や地域での「共生」を実感するとともに、イベント企画力や運営力がつき問題解決能力の強化につながった。また、頼まれたこと、思いついたことなど、何でもやってみることで視野が広がり、新しい自分への発見や成長につながった。また、今まで学校から地域を見てきたが、地域の中での学校の存在を考えられるように成長できた。さらに、幼児から高齢者や障害者と、いろいろな人と音楽を通してつながり関わることで、様々な世代が「社会の中でどのように支え合っているか、地域での「共生」を実感した。	活動期間 :R6.4～R7.3 報告会 :R7.3.19(尼崎北高校)	○	○			○
10		高校		環境・探究部	みんなで「環境」について考えよう	藤尾 盛二郎	80 人	塚口西住宅福祉協会 武庫川髭の渡し花咲き会、 あまがさき環境 オープンカレッジ	・自治活動への理解促進と地域活動への関心を高めるために地域清掃を実施し、学校周辺に落ちているゴミの現状の把握と、自治会の方が実施している清掃活動が非常に大変なことを知るとともに、地域を取り巻くゴミについて問題意識を持つことができた。 ・地域福祉活動の担い手を育成することを目的として、コスモス園づくりを通して他のボランティアの方と一緒に協力する大切さや、整地・種まきという事前準備、種まき後のコスモスを育てる大変さを学ぶとともに、環境維持のために何ができるかを考えた。 ・環境問題についてわかりやすくイメージを持ってもらうために、エコあまフェスタに出展し環境カードゲームの体験を通して啓発を行った。高校生が地域住民とかかわり、相手に伝える力や方法・手段に気付き、様々な活動において地域社会と交流を持つ重要性を認識した。	活動期間 :R6.4～R7.3 報告会 :R7.3.19(尼崎北高校)	○				○

令和6年度「支え合いを育む人づくり支援事業」事業実績

No.	申請高校・大学名	種別	新規	グループ名	教育・研究活動名	指導責任者名 (教員名)	参加予定 生徒・ 学生数	協働する 市民活動団体名	主な活動目的・活動内容	活動期間及び 報告会予定日	活動内容(分野別)				
											高齢者	子ども	障害者	防災	その他
11	武庫川女子大学	市外大学		むこじょ子ども食堂がかり	尼崎市の子ども食堂における伝統野菜の学習機会の創出	設楽 馨	53 人	モコモコ倶楽部 (株)ハウスビルシステム	尼崎市内の2箇所の子ども食堂で、子どもたちやスタッフと学生が伝統野菜や調理により交流することで地域特性や栄養など、地域の伝統と食を継承し、子どもたちの住んでいる地域の理解を深め、より豊かな共生社会の構築を目的とした活動を行った。学生は、活動の中で調理補助や食育クイズ等により、参加の子どもや保護者と密接に関わり地域への関心を深めた。	活動期間 :R6.4～R7.3 報告会 :R7.2.10 (ZOOM)					○
12		市外大学		福祉ボランティアサークルムコネクト	防災・人災を防ぐエンバフメントプロジェクト	大岡 由佳 松端 克文 浅井 鈴子	30 人	尼崎市保護司会 一般社団法人TICC	これまで災害や人災によって誹訪中傷された方の中には、生きづらさや安心できる居場所を喪失してしまう実態がある。人災や防災の支援を行っている地域機関とともに、地域住民が災害や人災を自分事としてとらえることができるよう普及啓発を行った。 ・尼崎市保護司会と連携し、非行少年等のために活躍する更生保護分野の保護司のことを知ってもらい、地域全体で人災を軽減しておくシンポジウムを企画・実施した。更生保護のために関わる実務家とともに学生も参加し、地域でどのように更生保護を考えるべきかについてディスカッションを行った。 ・非常事態が起こったときの”もしもの時のお守りお菓子ポシェット”の作成企画を子どもたちに提供し、人災や災害といった非常事態に有用なポシェットづくりを通して、非常事態を想定してどう準備しておくかを考える機会とした。アンバサダーとして認定を受けている学生がオリジナルで子どもの”おももり”を参加の子どもたちと作成した。	活動期間 :R6.5～R6.11 報告会 :R6.11.21 (ZOOM)				○	○
13	関西国際大学	市内大学		児童文化研究会(Child Culture Club)	子どもたちへ防災理解を広めるプロジェクト	椋田 善之	30 人	紙芝居サークルどんぐりの会 立花ジョイタウン商店街振興組合	将来保育士や小学校の教諭を目指す学生が、災害時にどのように子どもたちの命を守り抜くか、地域の実態を把握した上で地域の子どもたちに向けたオリジナル紙芝居を作成し、商店街や商業施設でのイベント時に子どもたちや保護者へ向けて朗読した。紙芝居の内容は、尼崎市の特性である海拔ゼロメートル地域があることを伝えるために「津波」をテーマとした。	活動期間 :R6.5～R7.3 報告会 :R7.2.8(関西国際大学)		○		○	
14		市内大学		福祉学専攻インターシップ	地域住民の安全・安心なまちづくりプロジェクト	尾崎 慶太 山本 秀樹 春木 裕美	30 人	潮江社会福祉連絡協議会 竹谷社会福祉連絡協議会 三和本通商店街振興組合	学生が、防災を通じた安全・安心なまちづくりをテーマに活動を行った。 ・3年生は、「防災スマホ教室」と「防災サロン」を実施し、「防災スマホ教室」では、高齢者を対象にスマホの基本操作から災害時に役立つアプリ活用まで、幅広いスマホ教室を複数回実施した。また、「防災サロン」では、学生自ら内容を企画実行し、サロンの実施を通して災害発生時に誰一人取り残されないよう防災を知識を身につけてもらえるような内容とした。 ・2年生は、社会福祉連絡協議会(連協)と連携して、連協が実施している百歳体操やサロン活動に参加したり、個別の見守り訪問活動などを実施し、高齢者との交流や地域での暮らしの様子を聞く機会を得て、地域で取り組まれている活動の重要性を理解した。	活動期間 :R6.4～R7.2 報告会 :R7.1.21～1.22(関西国際大学) R7.2.8(関西国際大学)	○			○	
15		市内大学		地域防災ボランティアサークル「ちーぼ」	地域防災×地域交流プロジェクト	岩本 裕子	18 人	潮江社会福祉連絡協議会	防災士の資格を持ち、社会福祉士や保育士、教員を目指す学生が、地域の防災活動に参画し防災啓発活動を行った。 ・将来、地域の防災リーダーとして活躍できるように潮江連絡協議会と連携し、地域の防災訓練に参加することで、実施会場となった公園が非常時にはマンホールトイレの設備を備えた避難場所となることを学んだ。 ・炊き出し練習と子ども食堂を絡めて実施することで、参加者へ防災知識や非常食を備蓄しておく重要性を伝える機会とした。食事ができあがるまでは防砂クイズを実施し、参加の親子や子ども食堂運営者との交流の場となった。また、この活動をきっかけとし、「防災食 ご飯会」を実施し、ローリングストックに適した材料を使った防災クッキングを実施した。	活動期間 :R6.5～R7.3 報告会 :R7.2.8(関西国際大学)	○	○		○	
16	尼崎市立 尼崎双星高等学校	市内大学	○	教育福祉学科1年・図書サークル	地域で子育て支援プロジェクト	馬場 住子	86 人	アミング潮江商店街 一般社団法人りる・ぱーてい	福祉や幼児教育を学ぶ学生と地域の商店街や子育て支援団体が協働して親子向けイベントや子育て支援活動を行った。 ・商店街との連携イベントでは、「赤ちゃんハイハイオリンピック」「赤ちゃん休憩室」の運営を行い、乳児を持つ親子に商店街のよさを伝えけるとともに、商店街と学生と一緒に企画検討を行ったことで商店街にとっても新たな取組のアイデアが生まれることにつながった。 ・子育て支援イベントに学生が参加することで、運営者のサポートを行うとともに地域の子どもたちとの触れ合いから地域への愛着を育んだ。	活動期間 :R6.5～R7.2 報告会 :R7.2.8(関西国際大学)		○			○
17		高校		商業学科課題研究 普通科情報科 電気情報科課題研究 宇宙科学研究会	「高校生が小学生にロボットプログラミングを教えるリレー型オリジナル体験学習“ロボメイツ”」、「尼崎市のプログラミング教育の地域連携・高大連携」、「工業版STEAM教育」～3つの取組～	福井 厚輔 石井 友貴 猪飼 涼介 櫻木 嘉典	224 人	株式会社エアグラウンド 園田学園女子大学授業サポーターグループ ポノポノプレイス 株式会社ニューテック	地域でささえあいの意識を醸成するため「ロボメイツ」「プログラミング」をテーマに地域住民が集う場づくりや子ども食堂への参加、多世代間交流の実践を通じて地域の活性化を行った。 ・地域子育て事業所と連携し、事業所に通う小学生に対してプログラミング教室を行った。高校生が小学生に対して、興味や関心を高める工夫として、パソコンやロボット操作を小学生に見せたりなど、主体的な姿勢で取り組めた。また、地域の小学校へ”オリジナル体験学習”としてもロボメイツの授業を実践し交流を図った。この経験により高校の授業で身につけた知識・技能を定着しさらに、思考力や表現力を高める変化があった。	活動期間 :R6.7～R7.2 報告会 :R7.2.3(園田学園女子大学)		○			○
18		高校		むこっ子防災キャラバン	武庫総みんなの防災ポトル(MCMBB)	星野 涼子	17 人	武庫第11社会福祉連絡協議会 学校開放運営委員会(武庫北小学校)	むこっ子防災キャラバンでは、プラスチックポトルに災害時に役立つグッズを入れた携帯用の「防災ポトル」をワークショップで作ってもらい、防災意識を広める活動を地域の親子や高齢者に対して行った。地域のニーズを受けながら「社会を明るくする運動」「防災運動会」など、地域へ向けて市民活動団体と一緒に活動の場を広げ社会参画意や地域交流の意義について考えた。 ・「社会を明るくする運動」では、防災ポトルの紹介を行い参加者に配付するとともに、避難所での口腔衛生の重要性について発表し歯磨きシートの実演を行った。 ・スポーツを通じて防災を学ぶ会(防災運動会)は、学校解放運動運営委員会との協働し、体を動かしながら防災を学ぶイベントとして、防災に関するクイズやポリタンク、担架を使った障害物リレー等で楽しみながら防災グッズの使い方を紹介するプログラムを実施し、防災ポトルの配付を行った。	活動期間 :R6.6～R7.3 報告会 :R6.7.13(武庫西生涯学習プラザ) R7.2.3(園田学園女子大学)		○		○	
19	関西学院大学	市外大学	○	井村誠孝研究室	地域の福祉課題の解決に向けたバーチャルリアリティ技術の活用	井村 誠孝	22 人	尼崎医療介護スキルアップ交流会	認知症をはじめとする身近な地域福祉課題を情報科学分野の先端技術により住民の理解を深め、地域の福祉課題の解決に向けた活用を検討し、実社会への実装を目指した活動を行い、学生が自身の専門技術の社会的意義を実感する機会とした。 ・尼崎市民まつりにおいて、研究室で開発した認知症の記憶障害を自分事として体験するVRシステムの展示を行うとともに、多数の来場者に対して認知症患者の視点を自分事として考えるきっかけを提供できた。 ・尼崎医介護スキルアップ交流会の協力のもと、学生が開発中の半側空間無視を体験するVRシステムや言語を活用したコグニサイズによる認知機能トレーニングシステムを介護・福祉に従事する方に体験してもらい、実践的な視点からのアドバイスによりIT技術の活動について幅広い意見交換を行うことができた。	活動期間 :R6.7～R7.3 報告会 :R7.10.5(中央北生涯学習プラザ)	○		○		
12校				19グループ			878 人	34団体			9	11	4	11	11